2024年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック第2回議員総会議事録

開催日時	2025年1月19日（日）20:00～21:00
開催場所	ZOOM会議
議事進行	大西　弘高支部長
議　　長	高柳　亮先生
記　　録	関東甲信越ブロック支部事務局

内　　容

1.　開会

- 本日の議員総会の定足数について、投票権を持つのは、学会代議員数297名、その他役員7名で計304名。現在Zoomの出席者54名、提出された委任状が50通であったため、関東甲信越ブロック支部規約「第24条　議員総会定足数」の開催の条件（代議員総数の3分の1以上）を満たしている。

2.　支部長挨拶（大西ブロック支部長）

- 大西支部長より、関東甲信越ブロックの役員体制、活動方針と事業内容、本体からの補助金と活動費の使途などについて、概要が説明された。
- ブロック支部と都県連絡委員会の関係性について、説明された。
  ・ブロック支部は、JPCA本体の下部組織との位置づけであるが、関東甲信越ブロックにおいて各都県支部は、それぞれ支部の位置づけが違い、独自性の強い組織である。そのため都県連絡委員会は、議員総会の事前調整のための会合との意味合いが強かったが、各都県支部の意見交換の場として活用し、都県支部活動の活性化を目指す形への移行を検討している。

3.　議長選出

- 高柳　亮先生が立候補され、議長に選出された。

4.　協議事項

議題1：都県連絡委員会役員とブロック支部役員

- 大西支部長より、昨日都県連絡委員会が開催されたこと、関東甲施設ブロック支部役員として、看護師部会の幹事に椎名先生が就任したこと説明された。
- 藤沼委員長より、今後の都県連絡委員会の在り方や方針について、説明された。
  ・都県代表者の小まめなコミュニケーションの場として活用する。
  ・関東甲信越ブロック地方会に関する様々な議論や準備を行う。
  ・認定医同士の交流の場を作り、認定更新や指導医取得に関する支援を行う。

＜質疑・意見交換＞

- 岩間先生：関東甲信越ブロック内で、プログラム責任者同士の繋がりを作り、プログラム

運営支援ができるよう、担当幹事の役割が設置できると良い。

- 椎名幹事:看護師が今後どのようにブロック支部内で活動していくのか模索していく段階。学会内での看護師数が増えてきているので、どのような形で繋がりを作るか、また看護師がプライマリ・ケアに興味を持てるよう活動できると良い。
- 大西支部長：これまでは、看護師との共同企画をする場合に、誰にどのように声かけるのかが見えにくい状況だった。看護師部会の幹事就任で、今後様々な機会がでてくると思う。

議題 2：令和 7 年度ブロック支部地方会主管（資料 1）

➢ 東京都支部より立候補があり、12 月 7 日（日）にオンライン開催を予定。構想として、地方会ウィーク（仮称）があり、例えば平日夜にワークショップを 2 列ずつ行うなど、リモートの強みを活かした形式を検討したいと考えている。

質疑

- 特に議論なく承認された。

議題 3：その他

➢ 藤沼委員長：今後の都県連絡委員会の構想として、先ほど岩間先生がおっしゃってたようなブロック支部内でのプログラム責任者交流会の企画や、リクルート企画も良いアイデアだと思う。個人的に、認定医同士の交流や、相互に勉強し合うような仕組みを作りたいという思いもある。今後様々な企画について、都県連絡委員会で検討していきたい。

➢ 大西支部長：認定医同士の繋がりということに関連して、学会本体の専門医制度認定委員会に認定医支援グループが設立され、認定医フェローのような制度を検討している。また今年の年次学術大会では、認定医ブースを設け、気軽に立ち寄れるような場にしたいと思っている。学会本体と、関東甲信越ブロックの良い相乗効果が生まれると良い。

5. 報告事項

議題 1：令和 6 年度ブロック支部地方会

➢ 矢吹先生より、12 月 1 日（日）にライトキューブ宇都宮にて対面の地方会を開催したことが報告された。

・現在事後処理を進めており、参加人数は 379 名、うち非会員が約 1/3、学生が 1 割を占め、学会内外、及び若手からベテランまで幅広い参加者層であった。

・ランチョンセミナーや企業展示をいれない形での開催であり、約 30 万円の黒字収支となる見通しである。収入は、参加費と寄付から成り立っており、持続可能性を考えたときに、製薬企業の力を借りずに、対面で学会開催をすることが現実的には難しくなってきていることを大いに感じた。

議題 2：令和 6 年度若手医師向け事業

- 後日書面にて報告予定。

議題 3：令和 6 年度直接補助活動

- 大西支部長より、今年度は 5 件の応募があり、ブロック支部役員会の選考の結果、以下 2 件（敬称略）への補助を行ったことが説明された。
  ・首都圏家庭医療教育者の会（Metropolitan Society of Trainers of Family Medicine；MSTFM）、代表者　藤沼康樹
  ・薬局間、医療機関連携の構築活動（「患者のための薬局ビジョン」の再考）、代表者　髙山俊輔
- 令和 7 年度直接補助活動について、3 月頃を目途に募集を行い、年度初期から補助を行える体制にする。

議題 4：各県支部活動報告

- 茨城県支部：定期的に勉強会を開催している。前回の総会以降では、11 月 8 日に第 230 回保健医療福祉に関する勉強会「薬剤師の役割と薬物治療の適正化」を実施した。1 月 24 日に「働く女性のヘルスケアの今」という企画をオンライン開催予定である。
- 栃木県支部：栃木プライマリ・ケア研究会と、専門医支援をするタグという団体がそれぞれ活動している。直近では、足のプライマリ・ケアということで、足病医学の勉強会を開催した。県内の 3 つのプログラムで、月に 1 度連携会議を行っており、ポートフォリオ発表会の開催など、様々な繋がりを持ちながら活動している
- 群馬県支部：老年病研究所と共催で、年に 1 回総会と同時に講演会を開催している。3 月 16 日に、講師として伊勢崎市民病院皮膚科の田村厚先生を招へいし、在宅スタッフ向けに、皮膚疾患や高齢者のスキンケアについての講演を実施予定。
- 千葉県支部：10 月 27 日に学術例会を開催し、セッション数が大変多く盛り上がりのある会となったが、総合診療専門医と非専門医の間での理解やアプローチの違いが課題となっていると感じている。非専門医の医療機関や他の医療関係者との連携を強化することで、総合診療の分野がさらに広がりを持てるよう活動していくことが必要。
- 東京都支部長：月に 1 回、オンラインの企画を開催しており、特に生成 AI に関する講演会はニーズがあるということで、計 3 回開催した。薬剤師が中心となった連携ワークショップも開催している。運営委員会も、月に 1 回レギュラーで開催しており、非常に大事だと感じている。
- 神奈川県支部：神奈川県立足柄上病院で総合診療プログラム構築の話があり、県として連携できることがあれば、今後検討していきたい。
- 新潟県支部：昨年 2 月に第 15 回プライマリ・ケア研究会を開催した。今年は事務方が入れ替わったこともあり、企画等があまりできない状況であった。今年度は県内で専攻医 4 名が研修開始し、ポートフォリオ発表会の開催等、専攻医支援が必要と考えている。
- 山梨県支部：今年度は、県全体の専攻医が 2 名、来年度は今のところゼロという状況で

ある。まずは若い世代にプライマリ・ケアへの興味を持ってもらえるような活動をしていく。5 月に初めて総会を開催することになり、顔の見える関係作りを進めていきたい。

- 長野県支部 : 県内の横の繋がりを強めていこうということで、11 月 30 日に長野県支部の地方会、12 月 14 日にポートフォリオ発表会を開催した。病院ベースのプログラム専攻医・指導医は集まるが、それ以外の医師会や、国保直診の先生方、また他職種とのつながりや交流がない点が課題である。

議題 4 : その他

- 小見川幹事 : 各県でそれぞれ活動している薬剤師がいるので、ブロック支部活動での交流の機会があればありがたい。地方は、地理的に離れた距離の中で各々活動しているため、県を超えた薬剤師同士や他職種とのつながりを作っていきたい。
- 椎名幹事 : 様々な繋がりを持ちながら、看護部会の人を増やしていくこと、繋がりを作っていくことができたらと思う。

以上をもって、2024 年度第 2 回の議員総会は終了となった。